

# 丹後テキスタイル サミット

12月18日（日） 10:00～17:00

場所：オカモノヤシキ

国内最大級の織物産地、丹後。伝統的な織物の製法に加え、和装・洋装を問わず、各方面から寄せられる多彩な要望に応えるために日々新しい技術が生み出されている。奈良時代から続く歴史を持つ丹後だが、技術力だけでは突破できない壁がある。地域に根ざして発展したその成り立ちから、持続的な発展を目指すためには地域文化や暮らしに寄り添う販売戦略が不可欠なのだ。本サミットでは、丹後で精力的な活動を展開する織物業者に加え、地域に暮らすさまざまな立場の人々を交え、「理想の丹後」を探ることから議論が始まった。生活に立脚した視点から観光や教育、食文化にまで及んだ熱の込められた議論は、織物産業のみならず丹後地域の未来像を鮮やかに描いた。



ファシリテーター

北林 功 KITABAYASHI Isao

COS KYOTO (株) 代表取締役/コーディネーター

人材育成コンサルタントなどを経て、2013年、COS KYOTO 株式会社を設立。地場産業をグローバルな「文化ビジネス」とするためのコーディネートを手がける。2016年よりオープンファクトリーイベント「Design Week Kyoto」を企画・運営するなど、国内外への発信や交流活動にも取り組む。

主催：京都府商工労働観光部染織・工芸課  
協力：京都リサーチパーク株式会社

# Kougei now

伝統工芸を未来志向のものづくりへ

[www.kougeinow.com](http://www.kougeinow.com)

# 地域みんなで 熱く語る 理想の丹後像

京都府北部、丹後半島一帯は国内最大級の絹織物産地。「丹後ちりめん」の名で知られる繊やかなシボを持つ織物は、京都・室町をはじめ、日本中の和装産地に欠かすことはできない。本サミットでは、伝統的な手仕事の活性化を、地域振興とセットにして考えることからスタートした。あらゆる立場の来場者を巻き込んだ議論の末に出た「理想の丹後」とは。



参加者のアイデアを書いたカラフルな付箋で画用紙が埋め尽くされた

織物業関係者だけではなく、丹後地方に暮らすさまざまな立場の方が参加した本サミットでは、トークゲストと参加者が混ざり合って5つのグループをつくり、それぞれが議論した内容を発表し合う形式で進行した。最盛期からの落ち込みは大きいものの、織物業は依然として丹後地域の主要産業。国内の和装用白生地織物の約60%を生産するこの地域にとって、**織物業界の未来を話し合うことは、地域のこれからを考えることと同義だ。**ファシリテーターの北林 功さんが提示したディスカッションテーマは「**理想の丹後**」。織物だけではなく、観光や文化、教育、食、暮らし、自然環境……。4時間のディスカッションにおいて、思い付く限りの意見を出し合って、最後にグループごとの理想に辿り着くことを目標とした。

45分を1セットとして3回にわたるディスカッションが行われ、参加者から出た意見やアイデアはその都度、付箋に書き込んで画用紙に貼っていく。「やっぱり工賃の底上げでしょ」「観光に来てもらっても泊まる宿の選択肢がないね。ラグジュアリーホテルがあればいいな」「サーフィンの名所ってことはあまり知られてないよね」と、どのグループも議論が止まることはない。

京都府域から参加した西陣織関係者が加わるグループでは「丹後ちりめんをあらためてブランディングしよう」「上質な丹後の織物を地元で購入できるようにしよう」と

## 丹後テキスタイルサミット

織物業復興に向けた話題が起きる。また、幼い子どもを育てる世代が多いグループでは「教育を充実させてこそ、家族が暮らしやすい街だと思う」「地域住民同士の情報共有も活発にしたいね」と、生活面の改善へと話が広がる。どのような話題も最終的には織物業の活性化へと収束していくのは、織物の街、丹後ならではの道。

後半では、トークゲストがそれぞれのグループで行なった議論の経緯を説明し、今後、アイデアを実行に移すための「行動宣言」を行なった。

「『織物職人に焦点を当てた街のPR』や『世界一の織物産地として憧れられる街に』といった、**丹後ファンを増やすためのアイデア**を実現したいです」。(田茂井勇人さん)

「『古民家などの伝統建築を観光に活用する』『丹後で働くデザイナーや建築士と織物業の協業』など**既に地域にある資産をあらためて見直して街の活性化**を考える議論が盛んでした。印象的だったのは『目指せ、丹後の所得倍増計画』。織物業だけではなく、地域全体が経済的に安定する方法を皆で考え続けていきたい」。(安田章二さん)

「『街や暮らしをデザインする』『デザイン教育で子どもたちの意識を変える』など**デザインの視点で街を変えよう**という話題が多かった。また、広幅の織機を増やし、世界のラグジュアリーファッション・インテリア等の需要を取り込む案は、急務だと思っています」。(民谷共路さん)

「『丹後で起こることすべてに当事者意識を持つ』『**丹後全体を地域商社として捉え**、国内外を意識せずに売りに行く』『子どもの産着「ファーストちりめん」を商品化』など、硬軟両様のさまざまな意見が飛び交いました。どれも実現可能だと思っています」。(岡村芳広さん)

「これまでも地域の将来を議論する場はありましたが、今回は『命懸けでやろうよ!』と皆熱くなったのが印象的。これからも地域で未来を描きましょう」。(堤木 象さん)

そして、トークゲストとして議論にも参加したファッションデザイナーの種井小百合さんと大田康博教授からも、議論を振り返って挨拶があった。「あらためて丹後の宝を再認識した機会でした。今後、丹後の特性を上手く活かした地域づくり、ものづくりができれば」(種井さん)。「今、日本中の工芸品などの産地で活性化の動きが活発になっています。ものづくり、**地域おこしの両面で互いに学び合い連携し合えることがいくつもあるのでは**」(大田さん)。

最後に北林さんはこう締めくくった。「他人事ではなく『**自分がこうしたいんだ!**』という気持ちでディスカッションしていた姿が印象的でした。丹後の魅力を再発見した今回の議論はバラバラの意見が出たからこそ良かった。大きな雪だるまを作る時に、最初から大きく作ろうとせず、中の芯を硬く強くする必要があるように、皆さんの丹後を想う気持ちがぶつかり合う機会でした」。



種井小百合 TANEI Sayuri  
テキスタイル/  
ファッション・デザイナー

1985年生まれ。「Studio Berçot」(パリ)卒業。「Jean-Paul Gaultier」本場でウィメンズディフュージョンライン企画統合責任者、刺繍デザイナーを担当後、高田賢三氏の元でウィメンズコレクション統括、ニットデザインアシストおよび、日本のライフスタイル卸企業とフランス企業の間でMDフォロー業務を担当。現在「ReBELLE」株式会社取締役。



大田康博 Ota Yasuhiro  
徳山大学経済学部教授/  
経営学博士(大阪市立大学)

日本の繊維・アパレル産業の研究者。著書に『繊維産業の盛衰と産地中小企業』(日本経済評論社)。論文に「繊維産業における市場創造志向の水平的協働：フランス・イタリア・日本の展示会と中小企業」(徳山大学論叢)「地方繊維産地のコミュニティを変革する制度的『外部者』：『よそ者』の動機、資源、ネットワーク」(中小企業季報)ほか多数。



安田章二 YASUDA Shoji  
安田織物(株) 代表取締役

1952年創業の丹後ちりめん安田織物(株)の3代目代表取締役。きもの素材の中で特に夏物と呼ばれる、特殊な装置と高度な織り技術を駆使して、2本の経糸を振りながら緯糸を織り込む「縹」や「紗」を専門に制作する稀有な機屋。またアパレル企業勤務経験やネットワークを活かした展開や雑貨の制作にも取り組むほか、地域産業の発展にも貢献。



堤木 象 TSUTSUMI Mokuzo  
草木染織 山象舎

1987年、東京から京丹后市網野町に移り住んで以来、自生する野山の植物をスケッチし、図案化して、同植物から抽出した染液でちりめんを染め上げる草木染を研究。植物と反応させる金属の違いにより色の濃淡や色相を表現するロウケツ染の担い手。地域産業の「丹後織物」と、丹後を彩る自然を融合させた制作スタイルにたどり着く。



田茂井勇人 TAMOI Hayato  
田勇機業(株) 代表取締役

1931年創業の田勇機業(株)3代目代表取締役。大学卒業後に東京の高級呉服問屋に就職し、着物のノウハウを学ぶ。緯糸の撚糸から織りまでを自社一貫工程により、着物の絹白生地のいわゆる「丹後ちりめん」を製造している。伝統技術を受け継ぎながら、和装のほか洋装・インテリア等、多分野に丹後テキスタイルの可能性を模索し発信する。



民谷共路 TAMIYA Kyoji  
民谷螺細(株) 代表取締役

1970年代後半に父が確立した、貝殻の虹色光沢を持つ真珠層を切り出し加飾する「螺細」と、織物の伝統技法である「引き箔」を融合させ、螺細を織り込む「螺細織」。1996年に長男として継承し、家業に従事しながらも、生地を多分野に活用するため、パリを中心にメゾンへのアプローチや異業種コラボレーションにも積極的に取り組んでいる。



岡村芳広 OKAMURA Yoshihiro  
ミライクリエーター養成講座講師

1978年生まれ。子どもが生まれたのを機にシンガポールから帰国し、2015年京丹後市に移住。現在1歳6ヶ月になる2児の子育て奮闘中。海外歴8年の経験を活かし、地方でグローバルに活躍出来るミライクリエーターを養成すべく、プログラミング×英語×レゴ教育を地域の子ども達に実践中。サミットの開催場所として「オカモノヤシキ」を提供。

明るい丹後の将来像を描きましょう!

イノベーションを起こすためには互いの価値観に寛容になる必要があります。「何が正しい」はひとまず保留にして、とにかくたくさんの意見を出していきましょう。過去の暗い思い出は振り返らず、明るい未来のことだけ考えようというルールです。



ファシリテーター  
北林 功